

## プロジェクトリーダー:名古屋学院大学 スポーツ健康学部 中野貴博准教授

### 事業実績調書

|   |                               |
|---|-------------------------------|
| (1) プロジェクト名   | こどもの体力・運動能力, 活動意欲向上を目指した調査・実践 |
| (2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)  |                               |
| <p>2018年度は主に3つの活動を実施した。</p> <p>1) 瀬戸市内の小学校1, 2年生を対象に集中的な運動実践、では46名の児童を対象に全8回の運動実践を名古屋学院大学で実施した。対象者は運動が苦手であったり、機会が不足していたりする児童を選抜した。実践内容は、身体感覚能力、バランス能力、反応変換能力、用具操作能力、走能力、親子運動を中心として、子ども達が少しでも運動が好きになったり、機会が多くなることを目指して実践を行った。また、保護者も適宜参加いただくことで、保護者の子どもの運動への意識改革も目指した。</p> <p>2) 瀬戸市内の小学校2年生の保健体育授業の協働、では昨年度まで1校のみの対象校であった同活動を4校へと拡大した。昨年度同様に、全8種目の新体力テストを実施 ⇒ 個人票の作成 ⇒ 子ども、保護者向けに個人票の配付 ⇒ 保護者の意識喚起をまず1学期に実施した。さらに、2学期以降は、水泳、マット運動、跳び箱、ボール運動、などの体育授業補助を4校で展開した。トータルの測定、授業補助の回数は20回を超え、年々、活動が充実してきている。これにより、保護者の意識喚起、教員の指導力向上、子ども達の運動機会の増加がなされたものと思われる。</p> <p>3) 運動指導を充実させるためのリーフレット作成、では、2)の実践を踏まえ、主に走動作と跳動作に関する指導リーフレットの作成を行った。昨年度は投動作のリーフレットを行っており、市内全小学校に配布され活用されている。今年の作成された領域においても活用が今後、期待される。</p> |                               |
| (3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)  |                               |
| <p>前節で示した通りの3つの活動について示す。1) 瀬戸市内の小学校1, 2年生を対象に集中的な運動実践、では、前述の通り8日間、46名の児童を対象に実践活動を展開した。実践場所は、名古屋学院大学瀬戸キャンパスの体育館であった。各回の実践は2時間であり、合計16時間の運動実践を行った。</p> <p>次に、2) 瀬戸市内の小学校2年生の保健体育授業の協働、では、瀬戸市立下品野小学校、東山小学校、品野台小学校、八幡小学校と共同で、2年生の体育授業に20回以上、述べ50時間以上に関わることができた。水泳、マット運動、跳び箱、ボール運動などの授業に関わった。関わり方としては、授業計画は单元ごとに小学校の教員に立てていただき、その後、補助的な導入運動や補助の声掛け案を大学側が提案し、協働で授業を実践、そして、終了後に反省、確認の流れを繰り返した。</p> <p>最後に、3) 運動指導を充実させるためのリーフレット作成、では、走動作と跳動作に関する指導リーフレットをA4両面にてイラストを用いて作成した。リーフレットは表面に指導の留意点や、起こりやすい失敗を示し、裏面には、指導に有効な運動内容や声掛けを提示した。これらのリーフレットは新年度には、市内全小学校の1, 2年生と関連公立保育園に配布することで普及を図る。同時に大判ポスター印刷も行い、体育館等に掲示していただき、活用していただく予定である。</p>  |                               |
| (4) プロジェクトの今後の課題と展望   |                               |
| <p>本研究課題は2019年度の継続申請を持って一区切りとなる。運動実践の活動を継続的に進めていくとともに、これまでに数多く実施してきた運動実践の成果を広く普及させていくことが重要課題となる。2018年度までにも数件手掛けてきたリーフレット作成を進めること、さらには、それを利用した指導体系の確立を目指していく。また、成果を教育、保育現場に還元していくための一つのモデルケースとして、平成31年度開校の小中一貫校の体育教育のカリキュラムとのタイアップを進める。すでに、タイアップしてカリキュラムを充実させることは決定しており、2019年度はより具体的なカリキュラム作成と活用、指導の体系化を図ることが課題である。あわせて、小中一貫校における成果検証を進めていく。</p>   |                               |